

最新

愛知

岐阜

三重

静岡

長野

滋賀

福井

石川

富山

橋の点検の技術試す 美濃で岐阜大の教授ら

2017/2/23 紙面から

橋の点検の新技术を搭載した装置の实地試験が二十二日、美濃市上野の板取川左岸河川敷であった。岐阜大の専門チームの教授ら六十八人が、川に架かる下橋(しもばし)を使って効果や改善点を確認した。

同大は、国が民間にインフラ点検装置などの開発を委託する「戦略的イノベーション創造プログラム(SI P)」に協力。県内で導入できそうな装置の实地実験を国から請け負い、昨年十月から県内各地で試験を行っている。今回は五回目で、橋梁の損傷状況の変化を調べるカメラや、打音による点検装置など三種類をテストした。

河川敷で開発担当者らは装置を動かし、点検を請け負っている業者らに使い方を説明。打音機械や録画用カメラを備えた小型無人機「ドローン」の実演飛行もあり、担当者は目視しづらい橋の裏側にドローンを飛ばして有用性を確かめていた。

参加した岐阜大の羽田野英明客員教授(63)は「本物の装置を見て具体的な使用イメージができた。どんな場所にどの技術が使えるのかを今後考える必要がある」と話していた。

(大野雄一郎)



打音装置やカメラを搭載したドローンで橋の裏側を点検する担当者＝美濃市上野で